

小地域ケア会議の推進について ～孤独・孤立対策の取り組み～



1

1. これまでの経緯



早島町でも少子高齢化や核家族化が進み、H12年からR2年までの20年間で高齢者夫婦世帯は2.1倍、高齢者単身世帯は2.4倍になり、中でも75歳以上の単身世帯は3.1倍になっている（早島町高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画）。

また、障害や認知症、ヤングケアラー、ダブルケア等、家族の抱える問題が多様化・複雑化・重複化（複合化）している。

これらのことから、地域での孤独・孤立対策について、包括ケア懇話会でも検討を重ねてきた。

2

**R5年8月 研修会「孤独・孤立問題を取りまく
現状と対策」美作大学 社会福祉学科長 小坂田
稔教授**

- ・地域福祉の取り組みや、ニーズを潜在化させる
「意識の壁」「情報の壁」「制度・サービスの壁」
の3つの壁について
- ・壁を壊すための地域での見守りの仕組みや取り組みについて

3

**R5年11月 視察研修「美咲町における小地域ケア
会議の取り組み」**

- ・社会的孤立や「制度の狭間の問題」等地域課題
の解決に向けて地域住民と専門職が話し合う「小
地域ケア会議」について
 - ・地域における見守り支えあい活動の紹介
- 早島町でも小地域ケア会議を開催したい！**

4

2. 提案から開催まで

H30年～R4年 「地区連絡会」

民生委員・福祉活動員による夏季一斉友愛訪問に
合わせて、地域で気になる高齢者や世帯の情報共有や、
地域課題の共有を行っていた。

→地域での孤独・孤立対策を考える場、地域課題を検討する場「小地域ケア会議」として再構築したい！

5

①R5年12月 包括ケア懇話会（幹事会）で説明

②R6年1月 民生・児童委員協議会定例会で説明

③R6年2月 福祉活動員定例会で説明

6

④R6年5月 見守り推進会議で説明

⑤R6年5月 自治会・行政連絡会議で説明

③R6年6月 民生・児童委員協議会定例会で
日程調整アンケートを配布

7

3. 実施状況（R6年6月～10月）

- ・13地区で実施（うち1地区は行政・社協の参加なし）
- ・残り5地区については、引き続き開催方法を民生委員と相談中
また、気になる人について随時相談・情報共有を行っている
- ・参加メンバーは、民生委員、福祉活動員、町内会長、自治会長、
社会福祉協議会、地域包括支援センター（地区によって異なる）
- ・会場は地域の公民館、集会所、役場
- ・曜日、時間は地域に合わせて調整（土日、夕方もあり）

8

4. 主な内容

①地域で気になる人（世帯）について情報共有

- ・要支援者名簿をもとに訪問したことで、高齢者だけでなく障害児（者）やひとり親家庭等気になる人を新たに把握できた
- ・老々介護、ダブルケア、引きこもり、障害等により近隣とトラブルになっている世帯等
- ・50代で転入。地域とのつながりもなく孤立している 等

→包括や社協の訪問等、今後の見守りについて相談、共有

9

5. 今後の展開について

- （１）気になる人の見守り状況や、地域課題について
話し合いを重ねることで、地域の強みや弱みを知る
→見守りの仕組みや地域に必要な取り組みを考える
- （２）地域と町、社協などの関係機関とのネットワーク
を強め、一緒に地域課題の解決に取り組む

10

6. 期待される効果

- ・ 各種団体のつながりが強まる
- ・ 地域の困りごとをみんなで話し合うことができ、課題解決につながる
- ・ 高齢者や地域で支援を必要とする人たちを見守る仕組みが増える

→ 孤独・孤立対策の充実

